



THE Y'S MEN'S CLUB OF KANAZAWA-SAIGAWA

CHARTERED IN JUNE 12, 1993

AFFILIATED WITH THE INTERNATIONAL ASSOCIATION OF
Y'S MEN'S CLUBS

THE SERVICE CLUB OF THE YMCA

KANAZAWA YMCA : 44-1, SATOMICHO, KANAZAWA, JAPAN 920-0998

<http://www.ys-chubu.jp/saigaways/>

| | |
|----------------------------------|---|
| 国際会長主題 | 「言葉より行動を」 “Talk Less, Do More” |
| スローガン | 「今すぐやろう！」 “Do it Now” |
| アジア地域会長主題 | 「未来を始めよう、今すぐに」 “Start Future Now” |
| スローガン | 「ひとつのアジア、世界はひとつ」 “One Asia, One World” |
| 西日本区理事主題 | 「響き合い、ともに歩む」 “To walk together, echoing each other” |
| スローガン | 「こころ豊かにワイズ活動を展開し、ワイズスピリットをつないでゆく」 |
| 中部部長主題 | 「“将来を見つめたワイズ活動！”を今やってみよう！」 |
| 金沢犀川クラブ会長主題 | 「活力に満ちたワイズライフを！」 “Vitalize Our Lives at the Y's Men's Club !” |
| 会長：澤瀬 諭、副会長・会計：川村孝治、書記・直前会長：北 肇夫 | |

今月の聖句：わたしたちは、世の霊ではなく、神からの霊を受けました。それで私たちは、神から恵みとして与えられたものを知るようになったのです。 コリントの信徒への手紙 2章 12節

2014年11月強調月間

Public・Relations・Wellness

ワイズデーの広報として、ワイズメンズクラブの認知度を高めましょう。

加藤信一広報・情報委員長（京都トップスクラブ）

| | |
|--|--|
| ☆☆☆11月第一例会案内☆☆☆ | ☆☆☆10月例会報告☆☆☆ |
| 日 時：11月13日(木)19:00~21:00 | [第一例会] 10月13日(月・祝)に予定していたバーベキュー特別例会は台風接近のため中止 |
| 会 場：金沢白鳥路ホテル | [第二例会] 10月30日(木)19:00~21:00、竹中チャペル、参加者：北・澤瀬・竹中・平口・三谷。 |
| 会 費：3,500円(夕食代) 準 備：北ワイズ | 金沢クラブ・ネット会主催「芋煮会」 11月1日(土)10:30~14:00、内川スポーツ広場、北・平口参加。中部評議会・中部YYフォーラム・名古屋YMCA大会 11月29日(土)、名古屋通信ビル、澤瀬会長・平口直前中部部長参加。ながまちふれあいフェスティバル 2014 11月30日(日)10:00~15:00。 |
| ***プログラム*** | 今月の聖句について 2章6~16節は、「神の霊による啓示」について記されている。「霊」の定義は様々であり、このスペースで「霊」について解説する余裕はないが、この聖句で示された「神の霊」とは、キリスト教における三位一体の神(父・子・聖霊)のうちの「聖霊」を意味する。三位一体論も難解であるが、端的に言えば「聖霊」とは「神からの働きかけ」だ、と私は理解している。「わたしの言葉もわたしの宣教も、(中略)“霊”と力の証明によるものでした。それは、あなたがたが人の知恵によってではなく、神の力によって信じるようになるためでした。」(2章4~5節)。(平口) |
| 司 会：川村ワイズ | |
| 開会・点鐘：澤瀬会長 | |
| ワイズソング：一同 | |
| 今月の聖句：司会者 | |
| ゲスト紹介：司会者 | |
| 今月のハッピーバースデー：澤瀬会長 | |
| 澤瀬ネット | |
| 食前の感謝：竹中ワイズ | |
| — 会 食 — | |
| 卓話：「加賀友禅に魅せられて」鶴賀雄子氏 (アム運輸株式会社顧問・ゆうび着付学院理事長) | |
| 事業委員会報告：各委員 | |
| ニコニコタイム：川村ワイズ | |
| 閉会点鐘：澤瀬会長 | |
| 例会に使用済み切手、アルミ缶、ワイズ用布製品をご持参下さい。 | |
| 12月の当番 司会：北ワイズ、準備：竹中ワイズ | |

| 当クラブ | 10月出席者 | 10月出席率 | BFポイント | ニコニコタイム |
|---------|---------|-----------|---------------|--------------|
| 正会員 5名 | メン 5名 | 83% | 前月繰越切手 2,862g | 前月累計 34,256円 |
| 広義会員 0名 | メネット 0名 | | 10月分切手 23g | 10月 5,390円 |
| 功労会員 1名 | ビジター 0名 | メーキャップ 0名 | 今年度累計 | |
| | ゲスト 0名 | | 切手 2,885g | |
| | | | 現金 0円 | |
| 合計 6名 | 5名 | 83% | | 累計 39,646円 |

“TO ACKNOWLEDGE THE DUTY THAT ACCOMPANIES EVERY RIGHT”

◆ 長浜クラブ 10 月第一例会参加記 ◆

澤瀬 諭

10 月 2 日(木)、北びわこホテルグラツィエで開催された長浜ワイズメンズクラブのプラスワン例会に三谷ワイズと澤瀬が出席させていただいた。松本武彦西日本区理事を始め区の役員及び各部から 150 名余の参加があり、部会を思わせる盛大な例会となった。青年ゲストの方々も多数参加され、長浜クラブの勢いが感じられた。上原忠晴氏(公益財団法人京都府暴力追放運動推進センター事業課長)の講演「武蔵坊弁慶とあなたの輪」は、暴力団追放の“こわい”話を巧みな話術で事例紹介したもので、今後の参考となる研修会となった。会場が和やかな雰囲気にも包まれるなか中川友彦会長による閉会点鐘となり、帰路についた。23 時 30 分無事帰宅。

◆ 秋のクリーンキャンペーン報告 ◆

地域奉仕・環境事業委員長 北 肇夫

爽やかな秋晴れの 10 月 19 日(日)早朝、恒例の「新桜坂緑地(W 坂)クリーンキャンペーン(全市一斉美化清掃に協賛)」に参加しました。今回の参加者は、地元町内会「石交会」4 名と当クラブ 2 名で、当クラブは階段部を担当し、延べ 6 時間を要しました。いよいよ落葉期に入り、直前の台風 18 号、19 号の余波をうけ、落葉・落枝などで覆われ、収集したゴミの量は、45L 入り袋で 20 袋に及びました。清掃作業終了時には、お茶などで喉を潤して、皆で充実感・達成感を味わいました。

◆ 金沢 YMCA “わいわい農園”の現状 ◆

地域奉仕・環境事業委員長 北 肇夫

前回の報告はブリテン 9 月号掲載の澤瀬会長執筆「わいわい農園」体験記であり、これに紹介された野菜類は順調に生育している。今回は、金沢 YMCA “わいわい農園”の現況について紹介する。

現在、北陸学院三小牛キャンパス内の農園では、小学生クラスや大学生サークルの畝がサツマイモなどの収穫をほぼ終えて遊休地化している。一方、当“わいわい農園”では、当初 4 畝を 7 畝に拡張して、現時点でもフルに農園を活用している。

収穫は 9 月下旬にサツマイモ(五郎島金時と紅あずま)を予定していたが、五郎島金時については、直前に盗掘にあった模様で、前年に続き残念な結果となった。落花生やサトイモは 11 月中旬～下旬に、源助ダイコン・カブ・ニンジンには年内に収穫を予定しており、大いに期待している。

今後、収穫には学童たちとの交流も企画し、会員の皆さんにも楽しんでいただければと思う。



(金沢 YMCA “わいわい農園”20141110)

◆ 地中海クルージング体験記(2) ◆

—イタリアのチヴィタヴェッキア港～カナリア諸島—

平口 哲夫

2014 年 3 月 25 日(火)にローマの外港チヴィタヴェッキアから出航した MS ファンタジアは、翌朝の現地時間 8:00、大航海時代に活躍したコロンブスゆかりの地ジェノヴァに入港しました。



(ジェノヴァ港に入港した MS ファンタジアの船上で)

ジェノヴァの中心地フェッラーリ広場、コロンブスの生家、ガリバルディ広場などを散策。左の写真は、サン・ロレンツォ



大聖堂の前で撮ったもの。白と黒の縞模様の壁が特徴的です。内部は無料で見学でき、多くのステンドグラスに目を奪われました。

観光後は船に戻り自由行動。連れの女性たちはラインダンスなどに参加していましたが、私はもっぱら写真を撮っていました。17:00 にバルセロナに向けて出航。

◆ “ご縁”と“摂理”(7) ◆

平口 哲夫

「善良な人も不幸に見舞われるのはなぜか」という問いに対する「罪の報い」説を否定した海野道郎氏は、つぎに「神の見えざる意図」について話を進めます。「苦難は人を謙虚にする」や「苦難は人の信仰を鍛える」という考え方は一理あるのですが、当事者やその近親者に対して「それは神様が本人に、あるいは両親などに与えた試練なのであり、それは結果的に、神様の慈悲なのだ」とは言いがたい事例も世の中にはいろいろあります。

また、幼子を亡くした親に対して、「この子は、この世の汚辱にまみれる前に天に召されました。清らかな死を全うできたのです。」と聖職者が述べたときに、その子の親は納得するでしょうか、あるいは、生まれつきの難病によって苦しい生活を余儀なくされた子供が亡くなったとき、「あなたのお子さんは、これで苦しみから解放されて、神の御もとに召されました。良かったですね。」と言えるでしょうか、と海野氏は疑問を投げかけます。

(つづく)